

【文字や数値の置き換えを発生させずに CSV を Excel から開く方法】

CSVをダブルクリック等でそのまま開くと、「標準」の表示形式で各列のデータが表示されます。

「標準」の場合、Excel が値からデータ形式を自動判定するため、以下の「【ご参考】CSVを Excel で開く際に発生する現象例」の現象が発生します。

そのため、CSVを Excel で開く際は、ダブルクリック等でそのまま開かずに、

[「I 従来のテキストファイルウィザードを使用する方法\(全バージョン利用可能\)」](#)
(P2～P5)か [「II PowerQuery を使用する方法\(Excel2019、Microsoft365 で利用可能\)」](#)
(P6～P7)のいずれかの方法で、各列を文字列として指定して開いてください。

これにより、CSV のデータは文字列としてそのまま表示されるため、文字や数値の置き換えは発生しません。

※Excel から開かずに、メモ帳等のテキストエディタから開くことで、CSVのデータを文字列としてそのまま開くことができます。メモ帳で開いた場合、列がカンマ「,」で区切られて表示されるために少し見づらいですが、簡単な修正であれば、この方法の方が、Excel で CSV を修正するより簡単に修正が可能です。

区分	文字列	金額
1-1	012345	1234567890123

(Excel で開いた CSV)

区分,文字列,金額
1-1,012345,1234567890123

(メモ帳で開いた CSV)

【ご参考】 CSV を Excel で開く際に発生する現象例

1. 住所や区分など「-」が含まれているものが日付と判断されて、日付で表示される。

(例) 「4-1」 → 「4月1日」

2. 文字列が数字と判断されて、頭の「0」が削除される。

(例) 文字列の「012345」 → 数字の「12345」

3. 桁数の大きい数値(12桁以上)が、指数形式で表示される。

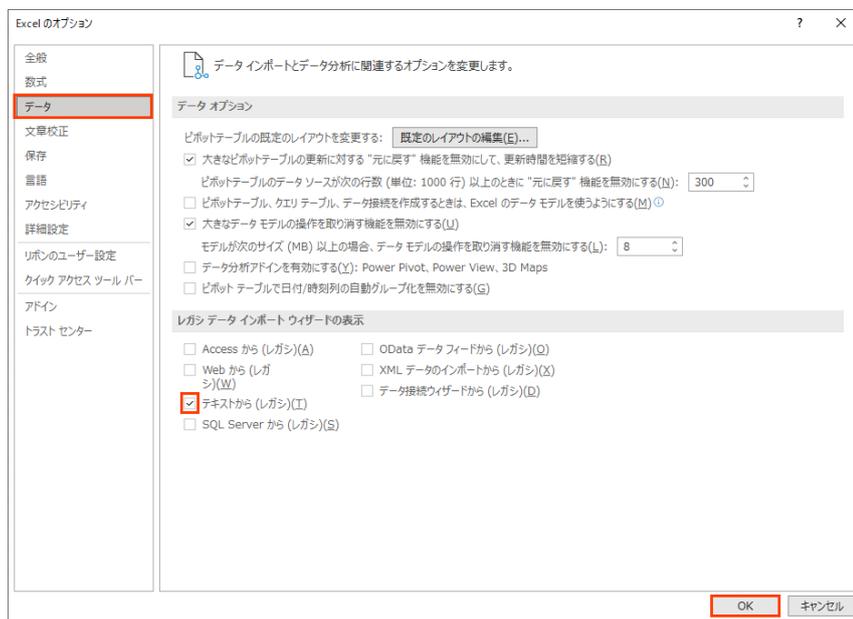
(例) 「123,456,789,000」 → 「1,23457E+12」

I 従来のテキストファイルウィザードを使用する方法(全バージョン利用可能)

1. Excel2019、Micorosoft365 の場合

(1) 事前設定 ※1度のみ行えばOKです。

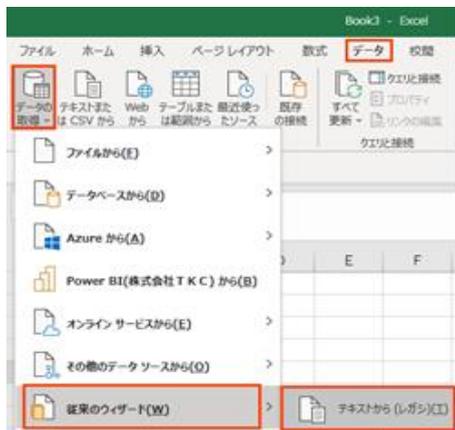
- ① Excel を開きます。
- ② メニューの「ファイル」>「オプション」>「データ」>「レガシデータインポートウィザードの表示」欄の「テキストから (レガシ)」にチェックを付けます。



(2) CSVを読み込む場合

※CSVはダブルクリックで開かずに、以下の方法で読み込みます。

- ① Excel を開き、「データ」タブの「データの取得」>「従来のウィザード」>「テキストから(レガシ)」を選択します。



- ② 開きたいCSVファイルを選択し、「インポート」ボタンをクリックします。
- ③ 「テキストファイルウィザード - 1/3」画面で、「元のデータ形式」欄で「コンマやタブなどの区切り文字によってフィールドごとに区切られたデータ」をチェックします。

また、「先頭行をデータの見出しとして使用する」もチェックし、「次へ」ボタンをクリックします。

テキストファイルウィザード - 1/3

選択したデータは区切り文字で区切られています。
[次へ]をクリックするか、区切るデータの形式を指定してください。

元のデータの形式

データのファイル形式を選択してください：

コンマやタブなどの区切り文字によってフィールドごとに区切られたデータ(D)
 スペースによって右または左に揃えられた固定長フィールドのデータ(W)

取り込み開始行(B): 1 元のファイル(Q): 932 : 日本語 (シフト JIS)

先頭行をデータの見出しとして使用する(M)

ファイル C:\Users\honda-daigo\Documents\売掛金.csv のプレビュー

1	区分,文字列,金額
2	1-1,012345,1234567890123
3	
4	
5	

キャンセル < 戻る(B) 次へ(N) > 完了(E)

- ④ 「テキストファイルウィザード - 2/3」画面で、「区切り文字」欄の「コンマ」のみにチェックを付けて、「データのプレビュー」欄で各列が区切られていることを確認し、「次へ」ボタンをクリックします。

テキストファイルウィザード - 2/3

フィールドの区切り文字を指定してください。[データのプレビュー] ボックスには区切り位置が表示されます。

区切り文字

タブ(I) 連続した区切り文字は 1 文字として扱う(B)
 セミコロン(M) コンマ(C)
 スペース(S) その他(Q):
文字列の引用符(Q): "

データのプレビュー(P)

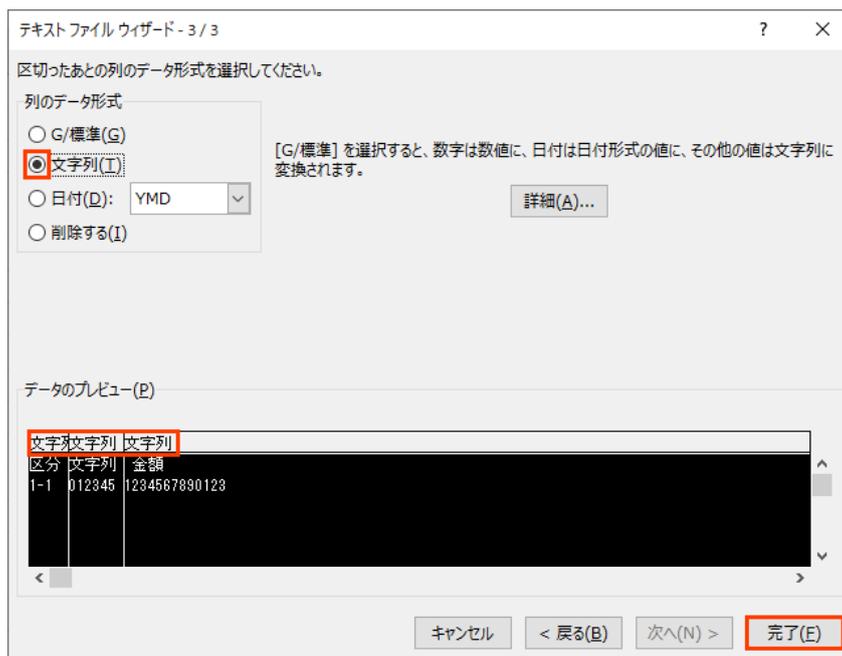
区分	文字列	金額
1-1	012345	1234567890123

キャンセル < 戻る(B) 次へ(N) > 完了(E)

- ⑤ 「テキストファイルウィザード - 3/3」画面で、「選択したデータのプレビュー」欄で各列を選択し、「列のデータ形式」で「文字列」を選択し、「完了」ボタンをクリックします。

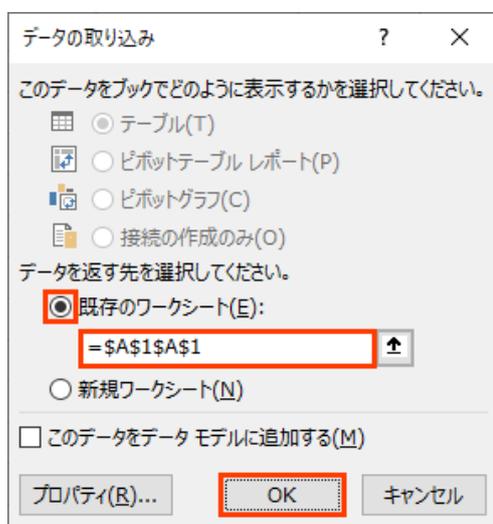
※「選択したデータのプレビュー」欄で Shift を押しながらクリックすることで、複数行を一度に選択できます。全ての行を「文字列」に設定してください。

※これにて、全ての列が文字列として読み込まれるため、CSVのデータ (=文字列) が Excel にそのまま表示されます。



- ⑥ 「データの取り込み」画面では、「既存のワークシート」にチェックをつけて、データを表示する領域の左上のセルを指定し、「OK」ボタンをクリックします。

※ワークシートの左端の場合は、「=\$A\$1」と入力するか、当該画面の後ろに表示されているワークシートの「A1」セルをクリックします。



- ⑦ CSVの各列が文字列として読み込まれて、CSVの内容がそのままワークシートに表示されることを確認します。

	A	B	C
1	区分	文字列	金額
2	1-1	012345	1234567890123

2. Excel2016以前のバージョンの場合

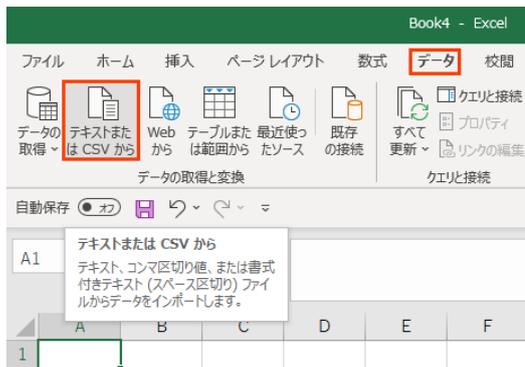
(1) CSVを読み込む場合

- ① Excelを開き、空白のブック(新規作成)を開き、「データ」タブの「テキストファイル」を選択します。
- ② これ以降は、[上記1.\(2\)②以降と同様の手順](#)となります。

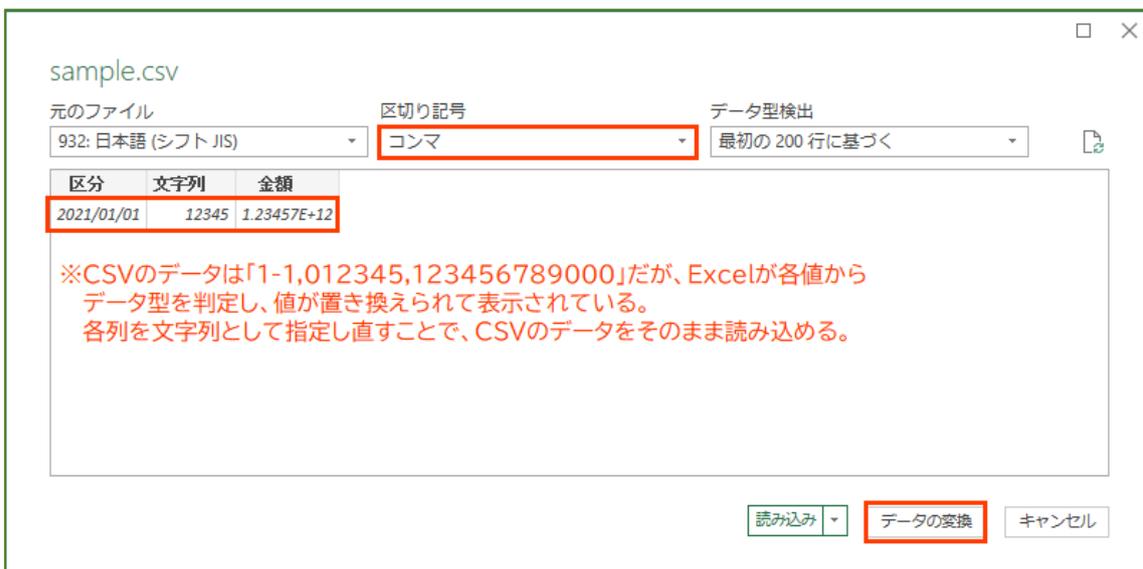
II PowerQuery を使用する方法(Excel2019、Microsoft365 で利用可能)

※CSVはダブルクリックで開かずに、以下の方法で読み込みます。

1. Excel を開きます。
2. 「データ」タブ > 「テキストまたは CSV から」をクリックします。



3. 「データの取り込み」ダイアログボックスで、対象の CSV を選択肢、「インポート」ボタンをクリックします。
4. 「CSV のファイル名.csv」(※)が表示され、CSV の中身が表示されます。
※読み込んだ CSV のファイル名が画面左上に表示されます。
※この段階で、Excel が各データの値から型を判断して表示しているため、CSV の本来のデータから値が置き換えられて表示されます。
5. 「区切り記号」が「コンマ」であることを確認し、「データの変換」ボタンをクリックします。

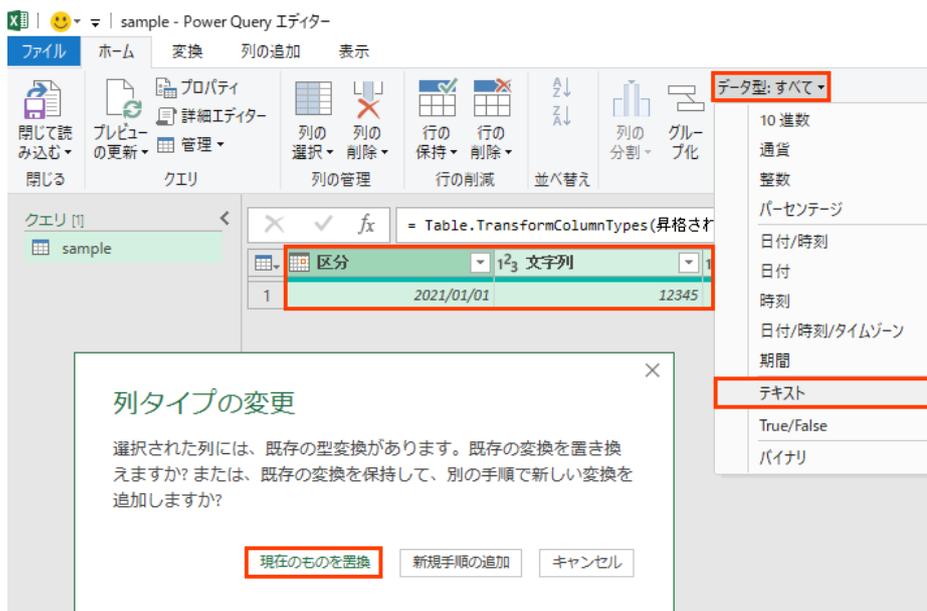


6. 「CSVのファイル名 - Power Query エディター」が表示されるので、読み込まれた CSV のテーブルを「Ctrl + a」で全列選択します。

その状態で、「ホーム」タブの「データ型：すべて」のドロップダウンリストより、「テキスト」を選択します。

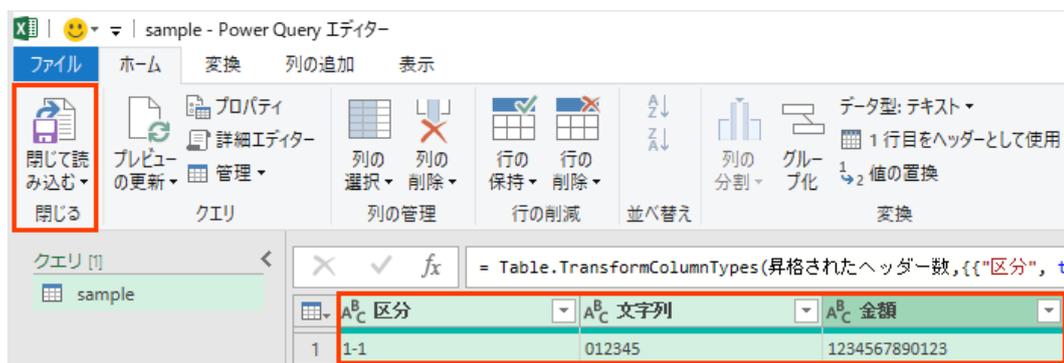
また、「列タイプの変更」は、「現在のものを置換」ボタンをクリックします。

※これにより、全ての列のデータ型がテキスト (=文字列) に変更されて、CSV のデータをそのまま読み込むことができます。



7. 各列のデータ型が「テキスト」になり、各列に CSV のデータがそのまま表示されることを確認します。

確認後は、「ホーム」タブの「閉じて読み込む」ボタンをクリックします。



8. CSV の各列が文字列のテーブルとして読み込まれて、CSV の内容がそのままワークシートに表示されることを確認します。

	A	B	C
1	区分	文字列	金額
2	1-1	012345	1234567890123

以上